

平成22年度 附属学校研究発表会日程表

附属学校教育局と各附属学校合同での研究発表会を下記日程で開催する予定です。ぜひご参加ください。
※各附属学校が会場となります。(附属学校研究発表会を除く)

区分	会場	研究協議会等開催予定日
附属小学校	研究発表会	平成22年 6月18日(金)・19日(土)
	初等教育研修会	平成23年 2月17日(木)・18日(金)
附属中学校	研究協議会	平成22年11月13日(土)
附属高等学校	教育研究大会	平成22年12月 4日(土)
附属駒場中学校	教育研究会	平成22年11月27日(土)
附属駒場高等学校		
附属坂戸高等学校	総合学科研究大会	平成23年 2月25日(金)
附属視覚特別支援学校	研究協議会	平成23年 2月19日(土)・20日(日)
附属聴覚特別支援学校	関東地区聾教育研究会「聾教育実践研修会」	平成22年 6月17日(木)・18日(金)
	聴覚障害教育担当教員講習会 (文部科学省、筑波大学共催)	平成22年11月24日(水)～26日(金)
	聴覚障害早期教育公開研修会 (特別支援教育研究センター後援)	平成23年 2月下旬
	筑波大学連携研究報告会 (学系と附属聴覚特別支援学校)	平成23年 3月
附属大塚特別支援学校	研究協議会	平成23年 2月18日(金)
附属桐が丘特別支援学校	自立活動実践セミナー	平成23年 8月 2日(月)～4日(水)
	研究協議会	平成23年 2月 3日(木)・4日(金)
附属久里浜特別支援学校	実践研究協議会	平成23年 2月 9日(木)・10日(金)
附属学校研究発表会	開催場所は未定	平成23年 2月26日(土)

目次

■新任校長挨拶	附属高等学校長●茂呂雄二……………1 附属聴覚特別支援学校長●宮本信也……………1 附属大塚特別支援学校長●藤原義博……………2 附属久里浜特別支援学校長●宍戸和成……………2
■研究会・研修会報告	平成21年度 附属学校教育局 研究発表会●熊谷恵子……………3 平成21年度 附属学校教育局 春期研修会●熊谷恵子……………3
■新任教員交流会報告	平成21年度 附属学校教育局 新任教員交流会について●江口勇治……………3
■この指とまれ	シンガポール短期留学を体験して●神原沙耶……………4
■新入教員奮闘中	『手探り』という日常●千野浩一……………4
■附属の今	附属視覚特別支援学校●星 祐子……………5
■附属の新しい波	プロジェクト研究の新しいスタート●石隈利紀……………5
■TOPICS	「科学の芽」賞のお知らせ●小林 汎……………6

●広報紙名「ポローニア」の由来

「ポローニア」とは、「桐」の属名であり、Paulowniaと綴る。本誌を「ポローニア」と名づけたのも、筑波大学の紋章に「五三の桐」が使われていることに拠る。しかし、ポローニアを付与した理由が他にも存在する。近代西洋医学を日本に伝えたシーボルトは、日本において、桐が瑞祥の象徴と見なされ、皇室をはじめ高貴な家柄の紋所として用いられていることを知り、Paulownia（後援者のオランダのパウロウナ公妃に因む）こそが植物の桐のイメージを表現していると考え、桐の学名（Paulownia imperialis）に定め、パウロウナ公妃に献呈した。今後いつまでも、多数の読者に愛され続けることを願い、ポローニアの故事来歴やエピソードに基づき、ポローニアと命名した。



新任校長挨拶

共に学び創造する



附属高等学校長

茂呂雄二

4月から附属高等学校長となり1月がすぎようとしていますが、生徒たちの発する“熱”や全身からでしてくる“力”に圧倒されています。私自身は旧東京教育大学の最後の学生で、36年前に高校を卒業し、茗荷谷で学生生活を送りました。その当時、これほどまでにエネルギーに満ちあふれていたことを思い出すと、元気になりそうです。

彼らのエネルギーに刺激を受けて、いろいろと新たに考えてみたいことができました。そのうちのひとつは、現代社会というテーマです。生徒諸君がこれから直面し、そして彼らの人生を強く彩ることになる現代社会の特徴をどのように理解すれば良いのか、そしてより良い社会のモデルをどのようにしたら作ることができるのか、ということです。このテーマは、生徒たちへの教育に責任をもつという立場からもぜひ考えてみたいことですし、心の営みを社会（そして文化や歴史）との関係から論じてきた者としても重要だと感じています。

すでに、多くの社会学者が日本社会の姿を論じています。議論に共通するのは、従来の右肩上がりの成長モデルがもはや通用しないとの認識です。これまでの経済成長過程では見えなかった問題が、現在様々に吹き出している現状からも、成長モデルの限界は明らかです。

成長モデルではないとして、現代社会のあり方をどのように描けば良いのでしょうか？それは実は生徒たちが知っているのではないかと感じています。かれらのしなやかで、柔軟な、それでいてテクノロジーを駆使したつながり方に答えが見えるのではないかと、そんなふうに期待しています。

子どもたちの健全な
人格形成を目指して



附属聴覚特別支援学校長

宮本信也

この4月から附属聴覚特別支援学校の校長兼務となりました。私は小児科医で、専門は発達行動小児科学です。子どもの発達、行動、心の問題を小児科の中で検討する領域です。発達障害、子ども虐待、摂食障害、不登校などを主に診療しています。そうした人間が附属学校の校長を兼務することになった訳ですが、案外無関係でもないと思っております。

小児科医は、具体的には子どもの心身の健康を維持する仕事に従事していますが、目指しているのは子どもたちの健全な成長と発達を保障することです。翻って、附属聴覚特別支援学校の教育目標をみますと、『進んで自分の能力を開発し、広い視野に立って文化的生産的活動の発展に寄与できる人格の育成』とあります。確かに、教育が最終的に目指すところは健全で学識豊かな人格形成ということができると思われます。その意味で、教育と小児科が最終的に目的とするところは同じといえるでしょう。であるならば、小児科医である私が附属学校の校長職務に就くことも、あながちそんなに変な話ではないと見ていただけるのではないのでしょうか。

附属聴覚特別支援学校には3歳から20歳台までの幅広い年齢の子どもたちがおります。その子どもたちが活動する姿を見ていますと、小児科医である私は何とも言えないほのぼのとした気分になります。教育畑出身の校長とは少し違った視点で子どもたちと学校を見つめながら、附属聴覚特別支援学校の発展に少しでも貢献していきたいと考えております。